

中学校剣道授業による生徒の意識変化について

—指導者の剣道経験と指導経験の違いによる比較検討—

矢山 将司 (広島大学)

1. 目的

本研究では、平成 20 年 3 月に必修科目となった武道の中から剣道に着目し、剣道の授業を受けた生徒の「ライフスキル」の変化を調査することを目的とする。またその変化と、教師の「剣道経験と指導経験」の比較から総合的に検討する。

2. 方法

- 1) 対象者：H 県の公立中学校 A、B、C、D、E 中学校の生徒各 18～32 名
- 2) 調査方法：中学校を教師の「剣道経験の有無」と「教師としての指導経験 5 年未満、5 年以上」の相異により 4 つのグループに分類した。

表 1 各中学校の分類

	指導経験 5 年未満	指導経験 5 年以上
剣道経験有り	A (n=32)	B (n=29) C (n=29)
剣道経験無し	D (n=18)	E (n=30)

また、元嶋ら (2014) が開発した「学校体育における武道関連ライフスキル尺度」を用いて、生徒に授業前後で計 20 問のアンケート調査を縦断的に行った。

- 3) 分析方法：アンケート結果を「ライフスキルの合計点」「カテゴリ別の点数」「質問別の点数」のそれぞれについて t 検定を用いて検討した。

3. 結果及び考察

- 1) 「最初の授業前」と「最後の授業後」のライフスキルの合計点の比較

各中学校で有意な変化が見られたのは、B、C 中学校であった。表 2 より、有意差が認められた項目は、B 中学校では「ライフスキルの合計点」「リーダーシップ」「礼儀」「精神力」であり、C 中学校では「リーダーシップ」「前向きな思考」であり、それぞれ向上が認められた。

表 2 B、C 中学校の変化について

	指導経験 5 年以上						
	(B)		t 検定	(C)		t 検定	
剣道経験あり	最初の授業前 n=27	最後の授業後 n=29		最初の授業前 n=29	最後の授業後 n=28		
	ライフスキル	74.22	84.14	**	76.45	82.14	
	リーダーシップ	13.70	16.52	**	13.17	15.57	**
	礼儀	16.44	17.93	*	17.41	17.18	
	精神力	15.33	17.24	*	16.28	16.96	
	前向き	14.11	15.93		13.76	15.79	*
	共感性	14.63	16.52		15.83	16.64	

(* : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$)

- 2) ライフスキルと授業内容の関係性について

ライフスキルの合計点が最も大きく向上した B 中学校の授業内容に着目すると、1、2 回目の授業でライフスキルが大きく伸びていた。特に「リーダーシップ」と「礼儀」のカテゴリーで有意な向上が認められた。その時の授業内容を確認すると、礼儀作法に関しては、形式だけでなく意味合いを含めた対人的な関係の指導を丁寧に行っていた。また、グループ学習も取り入れて生徒間の関わりを増やすなどの工夫がなされていた。さらに教師自らが防具をつけて指導するなど、対人性を意識する場面が多くあり、これらのことが、ライフスキルの向上に効果があったと考えられる。

4. 結論

本研究を通して、「剣道経験有り、指導経験 5 年以上」のグループでライフスキルが向上することが分かった。ライフスキルが向上した要因として、指導では「形式だけでなく、意味合いを含めた対人的な関係の指導」をすることや「グループ学習も取り入れて生徒間の関わりを増やす工夫」が効果的であると考えられる。

<参考文献>

- 1) 元嶋菜美香・他 (2014) 学校体育における武道関連ライフスキル尺度の作成と妥当性及び信頼性の検討. 長崎国際大学論叢, 14 ; 59-67.